

【乳がん地域連携パス運用手順】

乳がん地域連携パスについて、次のように運用させていただきますので、ご協力よろしく
お願いいたします。

1. 対象患者

広島大学病院乳腺外科で初回治療(手術、化学療法、内分泌療法、放射線治療など)を受けた
乳がん症例

2. パス導入時の連絡

患者さんに地域連携パス導入の同意が得られれば、担当医またはパス担当者より連携医療機
関の先生へのお電話にて連携の依頼をさせていただきます。

3. 広島大学病院への定期受診など

術後は連携機関様により1～3か月ごとに受診いただきます。6か月に一度は腫瘍マーカー
(CEAおよびCA15-3)の測定、一年に一度のMMG、乳房US検査を受けていただくスケジュールで
す。広島大学病院への受診は、連携していただける先生方の診療体制と患者様のご希望により
6か月毎もしくは1年に一度で適宜ご対応いただいております。

4. 連携医療機関の先生にお願いする診療

- ①診療の間隔や内容については、乳がん共同診療計画書をご参考にいただき、視触診、問
診による内分泌療法の投薬状況の確認と副作用のチェック、血液検査をお願いします。
また、原則的に以下の項目についても連携医療機関の先生をお願いします。
- ②薬剤の投与・変更・追加(投薬内容の変更をお願いすることがあります。)
- ③高血圧症・脂質異常など他の合併症に関する管理

※採血データなどの診療情報を当院へ送付頂きますようお願いいたします。その際、貴院におい
ては、月1回を限度として『がん治療連携指導料300点』を算定することができます。(パス導入時に
がん治療連携計画策定料を算定したものに限り、がん治療連携計画策定料の算定有無に
ついては、連携開始時に患者さんごとに当院よりご連絡いたします)

5. パスの期間

術後10年間です。10年経過後は地域連携パスを終了とし、基本検診、職場検診や人間ドックを
有効利用することとします。

6. バリエーション

- ①がんの再発や転移により連携困難と判断された時
- ②他病の病状悪化により連携困難と判断された時
- ③患者事情による広島大学病院もしくは連携医療機関へ定期受診困難時
- ④死亡